

自己紹介農村地域で何でも屋として活動

- 困難な状況の人を支援を 医学教育・社会医学・僻地医療
- **佐久総合病院** 農村医療・在宅ケア・緩和ケア・地域づくり
- **健和会** 都市の在宅ケア24時間医療・看護・介護とPC研修
- **川上村（7年）他農村11年** 地域包括ケア
- **学生・研修医の地域教育（毎年50人ぐらい）医系技官多数**
- **阪神高齢者障害者支援ネットワーク元理事（黒田裕子・中辻直之）**
- **プライマリ・ケア連合学会（旧家庭医療学会）元理事・地域ケアネットワーク委員長**
- **地域医療研究会世話人**
- **在宅ケアを支える診療所・市民ネットワーク理事**
- **保健医療福祉連携教育学会理事（IPE）**

- 一昨年4月に被災地支援で、石巻市立病院開成仮診療所開設
- 昨年、市包括ケアセンター一長兼務 地域包括ケアに取り組む

川上村の地域包括ケア

毎夕の連絡会とは

- 高齢化率 27%人口4800人の農村地域
 - 各部署（在介・ケアマネ・訪問看護・デイサービス・生きがいデイサービス・社協事務局・診療所、時に保健師）から最低1人出席
 - 各部署からその日の報告
 - その日の変化等に対応しサービス調整
 - 各部署に持ち帰りその部署のスタッフに報告し、情報を共有化
- （川上村での地域包括ケア：在宅死40%以上）



日本の医療の特徴

1. 国民皆保険 世界に先駆け 冠たるもの
2. フリーアクセス 課題が大きくなり、制限の方向
3. **自由開業制**

低社会保障費で世界一の長寿 世界一 (WHO. OECD)

医療の民営 効率が良い反面、不採算領域に政策医療の必要性

専門医開業 医学部と医師会の力が強い、家庭医・総合医不在

福祉の医療化 ベッド数3倍・平均在院日数4倍・一床あたり医療者1/3

【課題】

医療の民営 社会的共通資本としての医療となりうるか？

プロフェッショナル・オートノミー 医師の規範でいいのか？

私の基本的な立場

社会保障の一部としての医療＝社会的共通資本

医療・命の公共性と公平性が基本

PHC・地域包括ケア 適正技術（地域性）・住民参加・行政の責任

開成仮診療所開設の（所長の）目的と活動

- 開成地区でのプライマリ・ケア（外来）と在宅医療
- P H C活動（**保健活動**の支援・地域活動の支援）
- 仮設住民組織（**自治会**）の支援・相談役
- 地域の各種資源の連携強化（ボランティア支援）
- 仮設内では介護予防活動を支援 メンタルケア
- 仮設住宅以外の市内全域の在宅ケア活動
- 厚労省より開設前に！**在宅医療連携拠点**の指定 異例
- 市役所内で**地域包括ケア**整備の体制づくり
- 復興における地域づくり・住宅のあり方にも関与したい
- コミュニティ形成支援が最も重要
- 東北で在宅医療を含むプライマリケア・地域包括ケアを実践できる医師の育成を進める拠点を

現在の診療所の医師体制

- 伊勢病院長・副院長・循環器内科・内科（雄勝診療所）4人
- 日本PC連合学会後期研修施設・後期研修医3人
- PC認定医2人・家庭医専門医2人（いずれも指導医）
- 23年目 佐久、元PC連合学会理事・在宅ケア委員長
- 14年目 自治医大離島4年、都立病院ER、感染症ほか
- 9年目 地振協（自治医大系列）・福島医大家庭医・専門医
- 9年目 地振協・諏訪中央・専門医
- 今後、沖縄中部・聖路加、他、全国から集まる予定

被災地特有の健康課題

(当初よりの予想—実際その通りとなっている)

- 社会生活に戻っていく人と格差拡大
- うつ・閉じこもり・生活不活発病・認知症
- アルコール依存症が増える
- 周囲とのトラブルや孤立・孤独死のリスク
- 医療以前の活動の強化が必要

石巻市の「地域包括ケア」の取り組みの経過

- 市立病院が急性期から地域連携を行う医療機関に役割を変え再建される
- 市長名で副市長を中心に検討のための学習会？設置
- 2度にわたり、長が講師で、市役所幹部に講義
- 強調したのは、地域包括ケアシステムではなく、地域包括ケアが必要となる背景の理解（超高齢社会と社会保障水準が下がり、基礎自治体の責任となる流れ）
- 医療・保健・福祉のシームレスな提供体制ではなく、住宅政策や地域づくりの中で考える必要性
- 復興の中で核となるべき位置づけにあること
- 大変でも常に役割分担ではなく、合議で総合的に
- 市役所の縦割りの改善が必要
- 昨年4月の市長選の公約となり、石巻市の重要課題の位置づけ

顔の見える関係づくり

1. 会議の開催

- **エリアミーティング（1回/月）**

仮設内での問題ケースを現場関係者で共有

健康推進課保健師・3ヵ所の地域包括・県保健事務所・エリアコーディネーター・支援員・診療所・仮設健康相談の看護師・リハビリ支援事業委託先・メンタルケア委託先

- **多職種連携会議（1回/月）**

市全体の仮設の健康問題を考えるコアスタッフの集まり

被災対策市民課・健康推進課保健師・社会福祉協議会・エリアコーディネーター・診療所・仮設健康相談の看護師・リハビリ支援事業委託先・メンタルケア委託先

- **その他、各種会議への参加**

退院カンファレンス、地域ケア会議、サービス担当者会議等へ



医師、看護師が積極的に参加し医療的助言

課題の抽出、連携の推進により、医療・福祉・保健が継続的かつ包括的に提供

顔の見える関係づくり

2. 研修会・講演会の開催

・ 多職種合同研修会・講演会

今年度多職種合同研修会は4回開催。講演会は1回開催。今年度は管内の保健福祉事務所、医師会、歯科医師会、薬剤師会との共催・後援で開催。昨年度数名だった医療従事者の参加が10名前後の参加となり、参加率上昇。

・ 石巻管内MSW研修会

日常業務の中で良く遭遇する事例や困難事例、自作の寸劇などをもとに日常業務の悩みの共有や問題解決法を考える機会となっている。

・ 在宅支援者と学ぶ在宅医療勉強会

在宅支援者が集まり、日常頻繁に遭遇する医療問題を取り上げて勉強会を実施。より良い支援の在り方を考える。

→ 研修会を開催することで、顔の見える関係の構築や情報共有の場となるとともに、在宅医療の知識を普及し、在宅医療の底上げを図り、被災地の病床状況の改善にもつなげる。

石巻における地域包括ケアシステム 導入の目的(課題)

- 少子高齢化進展による、単身世帯を含む高齢者世帯の増加
/既存地域コミュニティの変容
(孤独死、医療費・介護費用の増加)
- 震災による人口移動に伴う地域コミュニティの変化
(地縁関係により成立していた個人の社会的役割の低下)
- 被災による心身の体調変化に伴った、閉じこもりなどに起
因する身体機能の低下や認知症、依存症の増加
(健康増進習慣の低下)



改 善

石巻における地域包括ケアシステム 医療分野の役割

	目標	取組方針
1	在宅医療提供体制の強化	<ul style="list-style-type: none">□ 新規に往診する医師の確保□ 既存に往診している医師の負担軽減
2	病院と一体となった連携	<ul style="list-style-type: none">□ 石巻市立病院との連携強化□ 急性期病院(石巻赤十字病院等)との連携強化□ 慢性期病院との連携強化
3	医療と介護の連携強化	<ul style="list-style-type: none">□ 多職種が議論できるフラットな「顔の見える関係会議」の開催□ ICTを活用した医療と介護の連携強化
4	市民への周知啓発	<ul style="list-style-type: none">□ 住民への在宅医療の周知啓発□ 地域のリーダーへの周知啓発

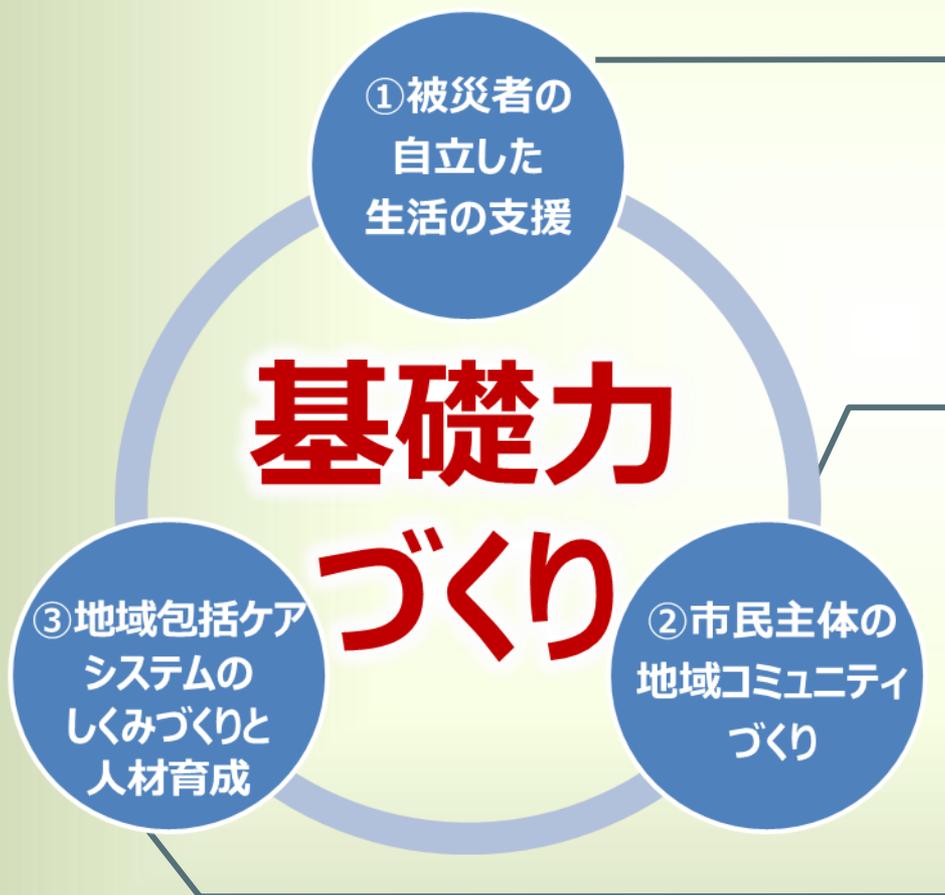
石巻における地域包括ケアシステム 介護分野の役割

	目標	取組方針
1	地域包括ケアシステムの理解促進	<ul style="list-style-type: none">□ 介護従事者の地域包括ケアシステムについての知識の習得□ ケアマネジャーの地域包括ケアシステムに関するスキルアップ
2	介護事業所間の連携強化	<ul style="list-style-type: none">□ 介護事業所間の「顔の見える関係会議」の開催
3	医師との交流	<ul style="list-style-type: none">□ 医療従事者との交流する場の確保
4	インフォーマルサービスの情報収集	<ul style="list-style-type: none">□ インフォーマルサービス提供者情報の収集

石巻における地域包括ケアシステム 地域コミュニティの役割

	目標	取組方針
1	高齢者の悩み事・困り事の把握	<ul style="list-style-type: none">□ 関係者の役割分担の上での高齢者の見守り□ 高齢者の交流の場の機会の提供□ 各地域の自立に向けた取組み
2	健康づくりの取組み充実	<ul style="list-style-type: none">□ 地域の健康づくりリーダーの創出□ 地域の任意団体による健康作りの取組み充実
3	各拠点に報告する体制整備	<ul style="list-style-type: none">□ 各拠点が高齢者の悩み事を把握□ 課題解決する関係者の役割分担
4	インフォーマルサービスを最大限活用	<ul style="list-style-type: none">□ インフォーマルサービスの把握・周知□ インフォーマルサービスの開発□ インフォーマルサービス事業者等も連携に参加
5	コミュニティの維持・形成	<ul style="list-style-type: none">□ 既存事業と足並みを揃えたコミュニティ施策の展開□ アクティブシニアを活用した高齢者支援□ 高齢者の就労場所の確保

石巻における地域包括ケアシステム 推進実施計画の目指すもの(3年)



「住まい・生きがいサポート」

- ・復興公営住宅への入居支援事業
- ・仮設住宅入居者向けの健康相談窓口、健康づくり

「医療・介護サポート」

- ・多職種が連携した被災者の健康課題への対応

「健康づくりによる地域づくり」

- ・地域の健康づくりリーダーの養成
(地域の健康をつくり、地域で支える人を育成する)

「地域の実情に合わせたコミュニティづくり」

- (地域の状況に合わせた互助型福祉サービス等)

「石巻版包括ケアシステムの仕組みづくり」

- ・協議会による計画の進捗管理と改善
- ・在宅医療提供体制の整備に向けた多職種連携体制

「医療・介護・地域の連携に長じた人材育成」

- ・自治会等の長や民生委員など、既存の地域のリーダーを活かした人材育成、活動支援
- ・地域包括ケア関係者（医療・介護・地域等）の交流の場